9 基本計画の策定・推進

長期的展望に立って首里城復興を効率的・計画的に進めていくためには具体的な施策や行程表を盛り込んだ基本計画を定め、各種施策を着実に進めていくことが重要です。

そのため、計画策定にあたっては、県民の意見はもとより、国、那覇市などの関係機関、各分野の専門家の意見を十分に踏まえるとともに、県内の高等教育機関や研究機関と連携を図り、首里城復興に向け、県民のみならず国内外の多くの方々が参画できるよう下記の取組を進めます。

（１）県民の意見を踏まえた基本計画の策定

本基本方針に沿って、首里城復興に向けた基本計画を令和２年度末までに策定し、各種財源の確保についてもあわせて検討します。

なお、計画策定にあたっては、基本計画策定に係る委員会等を設置し、国、那覇市など関係機関や、専門家や各種団体等の意見を踏まえるなど連携を行います。また、シンポジウム、ワークショップなどを通じて県民や国内外の復興を願う人々の意見も幅広く取り入れます。

（２）国内外の学術ネットワークとの連携

琉球大学をはじめとする県内高等教育機関や研究機関が有する知見や国内外とのネットワークを活用し、首里城復興に向けた取組を協議する場を設けます。

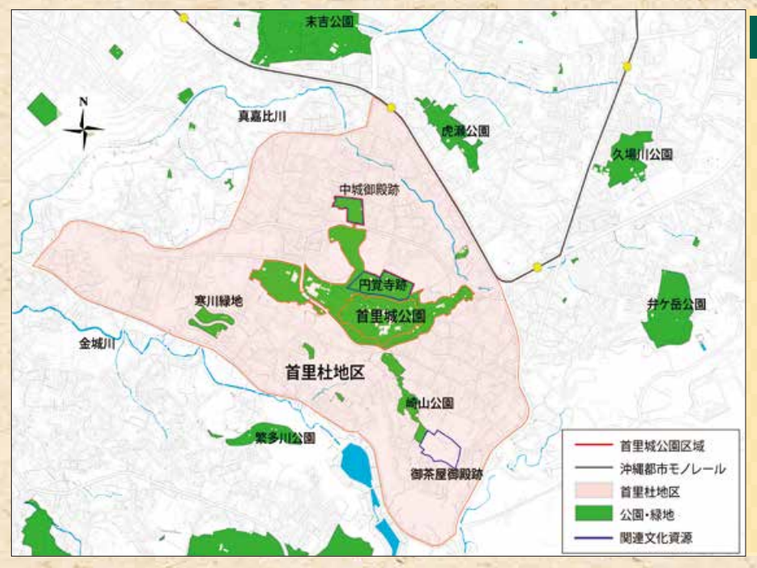
（３）県民等の継続的な参加による復興

首里城の復興は県民をはじめ国内外の多くの方々の継続的な参画により進めていくことが重要であり、長い年月を要することが見込まれます。

既に国内外において民間主体による様々な活動が進められていることから、その活動が連携し合い、広く情報発信をすることにより多くの方々が復興に参画できる仕組み作りに取り組みます。

基本方針の対象範囲

「歴史まちづくり」においては「首里杜構想」で位置付けられた「首里杜地区」を、「琉球文化」については首里城に象徴される琉球の歴史・文化の復興という観点から沖縄県全体を対象範囲として取り組みます。



【首里杜構想】

沖縄県では1984年（昭和59年）に「首里杜構想」を策定しました。

首里のまちは、首里城を中心に真嘉比川と金城川の２本の川に囲まれ、樋川や共同井戸など豊かな水源を有するまちで、緑に囲まれた傾斜地には首里を代表する景勝地が点在しています。こうした環境は昔から基本的に変わることなく、歴史ある首里のまちを支えてきました。

「首里杜構想」は弁之御嶽を頂点に、両水系に囲まれた範囲及び流域と分水嶺一体を古都首里の歴史的発展を特徴づけた風土環境としてとらえ、その環境を保全しながら、首里城を中核とする一帯（首里杜地区）のまちづくりを進めていく方向性を示したものです。

お問い合わせ
沖縄県知事公室特命推進課　〒900-8570　沖縄県那覇市泉崎1-2-2　電話：098-943-8199

首里城復興基本方針

琉球王国誕生以来、琉球文化・歴史の象徴であり、沖縄県民の誇りであった首里城正殿を含む建物８棟が、2019年（令和元年）10月31日未明に発生した火災により焼損しました。

今般の火災により焼け落ちていく首里城の姿は、県民のみならず、多くの国民や世界各国の人々に大きな喪失感を与えました。

かつて琉球は小国でありながらも諸外国に橋を架けるように船を通わせ、近隣国と良好な関係を構築し繁栄を遂げました。その歴史は琉球王国の歴史そのものであり、まさしく万国津梁（世界の架け橋）として、独自の発展を築いてきた沖縄文化の象徴です。

沖縄県では、2019年（令和元年）12月26日に発表した「首里城復興の基本的な考え方」を踏まえ、人々が知恵を集結し、心を一つに復元してきた首里城を再び甦らせることはもとより、首里城に象徴される琉球の歴史・文化の復興に向けた取組を進めるため、「首里城復興基本方針」を策定し、国や那覇市等の関係機関、県民をはじめとする多くの人々と連携のもと、首里城の復興に取り組みます。

首里城復興の基本的な考え方
（2019年（令和元年）12月）

（1）正殿の早期復元と段階的公開
首里城のシンボルである正殿の早期復元に向け取り組むとともに、復元過程の段階的公開を行い、首里城の「過去(歴史)」を知り「現在」を感じ、新たな「未来」に思いを馳せることができる場を目指す。

（2）火災の原因究明及び防火・施設管理体制の強化
火災の原因究明及び防火体制の検証に基づく再発防止に向けた防火設備の強化等、最新技術を取り入れた復元手法の検討を行うとともに、専門家の意見を取り入れ、安全性の高い施設管理のあり方を確立する。

（3）文化財等の復元及び収集
今回の火災で焼失した貴重な文化財等の復元及び国内外へ散逸した文化財等の収集を行い、次世代へ継承する。

（4）伝統技術の活用と継承
建物復元に必要となる木材や瓦等の調達に向け取り組むとともに、琉球王国時代より脈々と受け継がれ、蓄積されてきた伝統技術の活用を支援し、その継承に向けての取組を支援する。

（5）琉球文化のルネサンス
首里城の焼失により、改めてその価値が認識された琉球文化のルネサンスを興し、将来にわたりその価値を高め、ウチナーンチュが誇れる琉球文化を国内外へ発信する。

（6）世界遺産としての首里城を中心とした歴史的環境の創出
首里城跡（遺構部分）を適正に保全し、世界遺産としての価値が悠久に評価されるよう取り組むとともに、首里城を中心に琉球文化を体現できる場として周辺地域の段階的な整備を検討し、風格ある歴史的環境を創出する。

（7）歴史の継承と資産としての活用
戦禍等により灰燼（かいじん）と帰しながらも、平和と繁栄の象徴として繰り返し復元されてきた首里城の歴史を、次の世代を担う子どもたちに語り継ぐとともに、首里城の復興を通して、多くの人々の思いや努力が結実していく姿を、文化、教育、観光の資産として活用する。

首里城復興基本方針
（2020年（令和2年）4月）

1 正殿等の早期復元と復元過程の公開
（1）伝統技術を活用した施設整備
（2）木材、瓦等の調達に向けた取組
（3）復元過程の公開による観光資源等としての活用

2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化
（1）再発防止に向けた防火設備等の強化
（2）安全性の高い施設管理体制の構築

3 首里城公園のさらなる魅力の向上 NEW
（1）国営・県営区域の一体的利用
（2）多様で柔軟な施設の利活用

4 文化財等の保全、復元、収集
（1）首里城跡の適正な保全と価値の周知
（2）文化財等の復元、修復及び収集

5 伝統技術の活用と継承
（1）伝統的な建築技術の活用と継承
（2）美術工芸における伝統技術の継承

6 「新・首里杜（すいむい）構想」による歴史まちづくりの推進
（1）歴史を体現できる風格ある都市空間の創出
（2）首里城公園及び周辺地域の段階的整備
（3）交通環境の整備

7 歴史の継承と資産としての活用
（1）多様で魅力ある観光資源の活用
（2）平和を希求する「沖縄のこころ」の発信
（3）次世代を担う子どもたちへの継承

8 琉球文化のルネサンス
（1）多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識
（2）琉球文化の復興と新たな文化の創出
（3）国内外へ向けた琉球文化の発信
（4）琉球文化を活用した産業振興

9 基本計画の策定・推進 NEW
（1）県民の意見を踏まえた基本計画の策定
（2）国内外の学術ネットワークとの連携
（3）県民等の継続的な参加による復興

基本方針

1 正殿等の早期復元と復元過程の公開

首里城正殿等の復元については、国が国営公園事業として取り組んでおり、沖縄県は国の「首里城復元に向けた技術検討委員会」に参画し、国との連携を図っているところです。

県民に親しまれ、多くの来訪者を魅了してきた首里城正殿等の早期復元及び復元過程の公開に向け、国をはじめ関係機関と連携し、下記の取組を進めます。

伝統技術の粋を集めた正殿

（１）伝統技術を活用した施設整備

国や関係機関と連携し、県内に蓄積・継承されている伝統技術を首里城正殿等の復元に役立てるための取組を進めるとともに、人材の確保・育成に取り組みます。

（２）木材、瓦等の調達に向けた取組

国や関係機関と連携し、県産材等の調達ができるよう取り組むとともに、赤瓦については、県内の研究機関において、原料調査、配合、焼成などの調査研究や、仕様・品質管理の確立を行うなど、首里城正殿等の早期復元に資するよう取り組みます。

（３）復元過程の公開による観光資源等としての活用

国や関係機関と連携し、首里城正殿の遺構の公開や展示、復興イベントなどの取組を戦略的に行います。また、仮設見学通路の設置などを行い、復元過程の公開を行うことで、文化、教育、観光資源として活用し、県民をはじめ国内外の多くの人々が訪れるように取り組みます。

正殿内部

2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化

国は「首里城復元に向けた技術検討委員会」において首里城正殿等における防火設備の強化等を、沖縄県は「首里城火災に係る再発防止検討委員会」（以下「再発防止検討委員会」という）において、首里城正殿等の防火対策に関連する県営公園区域の防火体制や安全性の高い施設管理体制について検討しており、再発防止に向け、国と県で連携し、下記の取組を進めます。

消防訓練実施状況（画像提供：（一財）沖縄美ら島財団）

（１）再発防止に向けた防火設備等の強化

国は首里城正殿に火災の早期発見及び迅速な初期消火のための最先端の自動火災報知設備及びスプリンクラー設備、消防隊の迅速な消火活動を可能にするため、城郭内に消火用の水を送るための連結送水管設備を導入すること、さらに消火のための水源確保のため貯水槽を増設するとともに、関係機関と連携して消火栓の新設を検討するとしています。

県は国と連携して、首里城正殿等の防火対策に関連する県営公園区域の防火対策について検討します。

（２）安全性の高い施設管理体制の構築

県が設置した「再発防止検討委員会」において、消防等の火災に関する調査結果等を踏まえ、管理状況等の事実関係の確認・整理、正殿等が全焼に至った要因の分析等の原因究明を行います。また、先進事例等の調査を踏まえて、適正な管理体制のあり方を検討します。

県は、同委員会の議論を踏まえて、令和２年度末を目標に、適正な管理体制のあり方を示した「首里城火災に係る再発防止策」を策定し、国と連携して、管理計画等の具体的な検討を行い、安全性の高い施設管理体制の構築に取り組みます。

3 首里城公園のさらなる魅力の向上

首里城公園は、歴史、文化の拠点として魅力ある施設整備を行ってきました。今後も引き続き、多くの人々が首里城や琉球王国の歴史を知り、そこから発する現在の琉球文化を感じる場となるよう、設置者である国と連携し、下記の取組を進めます。

新春の宴　朝拝御規式（画像提供：（一財）沖縄美ら島財団）

（１）国営・県営区域の一体的利用

国との連携のもと、首里城公園内の展示、収蔵、解説、体験、行催事、飲食、休憩といった公園施設の用途について検討します。検討にあたっては、国営・県営区域を一体ととらえ、利用者の快適な滞在・回遊性を確保しつつ、首里城の歴史や魅力を「物語」として体感できるようにします。

貴重な美術工芸品等の展示・収蔵については、最新技術を活用した適切な展示・収蔵に加え、修復作業を視野に入れた施設のあり方を検討するとともに、今般の被災状況に係る展示・解説等を加えるものとします。

（２）多様で柔軟な施設の利活用

国と連携のもと、首里城の歴史や神聖な空間に配慮しつつ、首里城が将来にわたって琉球の歴史・文化の象徴及び発信の場となるよう、鑑賞、見学、体験、交流等の学習や観光利用とともに、文化創造等、魅力ある場の形成をめざします。

円覚寺

百人御物参

4 文化財等の保全、復元、収集

今般の火災では正殿において展示・研究のために露出していた部分の遺構２か所が被災し、また収蔵品の多くも被災しました。焼失又は被災した貴重な文化財等の復元や修復、及び国内外へ散逸した文化財等の収集を行い次世代へ継承するため、下記の取組を進めます。

焼失した収蔵品の例（扁額）（画像提供：（一財）沖縄美ら島財団）

被災により劣化した漆器類
（画像提供：（一財）沖縄美ら島財団）

（１）首里城跡の適正な保全と価値の周知

国と連携して遺構の劣化状況を的確に把握し、その価値が悠久に評価されるよう適切な保護を行い、公開に取り組みます。また、首里城跡や周辺文化財の発掘調査に関する成果の現地説明会を実施し、出土品の展示を行うなど、埋蔵文化財に関する情報発信にも積極的に取り組みます。

（２）文化財等の復元、修復及び収集

文化財等の所有者である（一財）沖縄美ら島財団との役割分担を明確にした上で、修復及び正殿等建物の復元にあわせた展示品等の復元について積極的に支援します。

また、先の戦災等で散逸した琉球王国関係資料に関する研究を行うとともに、国内外に所在する王国時代の資料収集に引き続き取り組みます。

5 伝統技術の活用と継承

首里城の城郭や木造建築群を支える建築技術、また染織、漆器、陶器などの美術工芸品に生かされている伝統技術は、琉球王国時代から脈々と受け継がれ、沖縄らしさの源流となっています。

そのため県内の関係機関と連携し、伝統技術を活用、継承するため、下記の取組を進めます。

伝統技術の継承（染織）（画像提供：沖縄県立博物館・美術館）

（１）伝統的な建築技術の活用と継承

首里城正殿等には、伝統的な建築技術が施されており、その技術は、前回復元時から施設修繕等で県内職人を活用することなどにより、蓄積・継承されています。

今回の復元後も、首里城正殿等の維持保全や県内建築物に活用できるよう、伝統的な建築技術を蓄積・継承するとともに、技術者の確保、育成に取り組んでいきます。

（２）美術工芸における伝統技術の継承

琉球王国時代から相伝する８つの手わざ（絵画、木彫、石彫、染織、漆芸、陶芸、金工、三線）について、模造復元から得られた調査研究の成果や復元過程の記録の公開など、広く情報発信に取り組み、技術者の育成、材料や道具類の確保に取り組みます。

また、美術工芸品等の修繕に関わる技術者の育成・継承に取り組み、沖縄伝統工芸品の修復拠点となるべく県立芸術大学を中心に首里城の伝統技術に関する教育の推進についても検討を行うと同時に、県内大学等との連携を図ります。

各技術の伝承者養成に向けては関連する保存会等の支援を引き続き行います。

新たに製作された漆器（模造復元）
（画像提供：沖縄県立博物館・美術館）

6「新・首里杜（すいむい）構想」による歴史まちづくりの推進

首里城を中核とする一帯（首里杜地区）は、世界遺産である首里城跡を保護する緩衝地帯（バッファーゾーン）となっています。

古都首里のまちづくりの方向性を示した「首里杜構想」を社会環境の変化や時代のニーズを踏まえて見直すことにより、首里杜地区が琉球文化を体現できる場となるよう、地域住民や関係機関と連携し、下記の取組を進めます。

金城町の石畳道

（１）歴史を体現できる風格ある都市空間の創出

世界遺産である首里城跡、園比屋武御嶽石門（そのひやんうたきいしもん）、玉陵（たまうどぅん）を含む地域の魅力を高めるために、首里城公園を含めた首里地域における歴史を体現できる風格ある都市空間（歴史的風致）の維持・向上をめざします。古都・首里ならではの固有性を守り育てながら、千年悠久の歴史まちづくりをめざした景観の形成に取り組みます。

（２）首里城公園及び周辺地域の段階的整備

県営公園区域にある中城御殿跡や円覚寺跡等の復元を計画的に進めていきます。また、御茶屋御殿跡など地域に点在する文化資源については、国や那覇市と連携のうえ段階的な整備に向けた検討を進めるとともに、官民連携のもと地域を周遊及び文化を体感できる拠点やネットワーク（スージグヮー等）の形成を図ります。

（３）交通環境の整備

首里城と周辺地域の歴史まちづくりを推進するために、回遊性の高い快適な歩行空間を提供し、地域住民と来訪者が共存できる観光交通や公共交通の利便性向上・充実など、ハード・ソフト面からまちの魅力を支える取組を展開します。

7 歴史の継承と資産としての活用

平和と繁栄の象徴として繰り返し復元されてきた首里城の歴史、文化はもとより、首里城の復興過程を次世代に継承し、その価値を発信していくことはとても重要です。首里城と周辺地域の観光資源を活用し、その価値を発信するとともに、子どもたちが観て、学ぶことができるよう、下記の取組を進めます。

子どもたち向けの首里城見学会

（１）多様で魅力ある観光資源の活用

国と連携して首里の魅力を体験できる周遊ルートの提案、地域の歴史、文化、生活様式を学び、体験できる観光商品の開発支援に取り組むとともに、観光資源を保全するため地域の文化財の保護、地域行事の継承などの支援に取り組みます。

玉陵

第32軍司令部壕
入口付近のトーチカ

（２）平和を希求する「沖縄のこころ」の発信

悲惨な沖縄戦の実相を正しく後世に伝え、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く世界に発信していくことは沖縄県の重要な責務です。

そのため、第32軍司令部壕などの首里城周辺の戦争遺跡を保存、継承するとともに、証言記録、調査資料等とAR（※1）等のICT（※2）を活用した平和学習ツールの開発・提供など、その歴史的価値の継承及び平和発信に向けた環境整備に取り組みます。

（３）次世代を担う子どもたちへの継承

那覇市など関係機関と連携し、次世代を担う子どもたちに琉球の歴史、文化を観て、学び、体験できる場を提供するとともに、その活動支援に取り組みます。

8 琉球文化のルネサンス

首里城の焼失により改めて再認識された琉球文化のルネサンスを興し、将来に向けてその価値を高め、万国津梁の精神を世界へ発信するため、下記の取組を進めます。

琉球の宮廷料理　東道盆（とうだーぼん）

組踊「執心鐘入」
（画像提供：組踊上演300周年記念　首里城復興祈念公演）

（１）多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識

首里城内の宮中文化に加え、多様性・独自性のある沖縄各地の地域文化の価値を再認識するとともに、魅力ある地域資源を普及・継承していく取組を行い、琉球文化の魅力を学術的に研究する拠点づくりについて検討します。

（２）琉球文化の復興と新たな文化の創出

先人の「万国津梁」の精神を受け継ぎ、これからの時代にふさわしい新たな文化芸術を創造する場としての首里城をつくるとともに、県民の感動体験の機会を創出する拠点としての首里城公園の活用を検討します。

（３）国内外へ向けた琉球文化の発信

日本遺産に認定された『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』のストーリーを国内外へ発信すると同時に、沖縄の多様な文化等に関し、国内外の大学等による学術面での評価・発信や世界のウチナーンチュネットワーク等を活用した取組等について検討します。

（４）琉球文化を活用した産業振興

本県独自の伝統的食文化や伝統工芸、芸能等の伝統技術を現代のライフスタイルにおいて広く活用するための商品開発や販路開拓等を支援し、伝統技術を活用した産業振興を図ります。

※1 AR　コンピューターを使って、現実の風景の中に情報を重ねて表示する技術。　※2 ICT　コンピューターやデータ通信に関する技術の総称。